



## 産業保健ハンドブックシリーズ⑨ はじめての嘱託産業医活動

編者：森 晃爾 発行：労働調査会 定価：(800円+税)

「少しのことにも先達はあらまほしきことなり」と、かの兼好法師も「徒然草」の中で述べている。大企業の専属産業医と異なり、嘱託産業医の場合は社内のサポート体制が十分ではないことも多い。嘱託産業医として活動を始める時に「先達」となる情報は手元に置いておきたいものである。本書は、そのための最適な一冊といえるだろう。

本書の執筆者はいずれも産業保健現場に精通したプロフェッショナルの方々と、各稿とも基礎知識がわかりやすく整理された上で実践的な知恵が詰め込まれている。第1章の総論では、新しい切り口から産

業保健の重要課題が論じられ、その概況とエッセンスを把握することができる。第2章の各論では、職場巡視や衛生委員会など各々の活動ごとに、基本事項から現場経験に基づく留意点に至るまできめ細やかに解説されている。極めつけは第3章。熟練嘱託産業医の方々が、事例を通じて産業保健の極意を語る。研修会後の2次会まで行かなければ聞けなかったような話が惜しげもなく披露されている。

はじめて嘱託産業医活動を始める方にはもちろん、老若男女、津々浦々の産業医にとって本書が「あらまほしき一冊」になることは間違いない。

かじわら たかよし  
梶原 隆芳

(株式会社梶原産業医事務所 代表取締役)



## 職場のポジティブメンタルヘルス3 働き方改革に活かす17のヒント

編著者：島津明人 発行：誠信書房 定価：(1,900円+税)

本書は、産業保健心理学・組織心理学・経営学・疫学・情報科学など、働く人の健康を考える各分野の専門家が、「組織・セルフ・休み方」という3つの切り口から、最新の知見のエッセンスを平易な言葉で紹介した良書である。

第I部は、自身の貢献が見えにくい業務従事者のモチベーションの引き出し方、創造性を促進する組織風土、部下のやる気を引き出す上司のフィードバックなど、「組織」が抱える多岐の課題に対して、数多くの有用な知見が示されている。一方、働き方や時間、場所等が多様化する中、今後は労働者の健康管理を企業だけに委ねることは難しくなっているのも事実だ。

そうした課題にヒントを与えてくれるのが、第II・III部の「セルフ・休み方のマネジメント」である。これからは、労働時間管理だけでなく、休みの過ごし方や睡眠のとり方が健康や生産性の鍵となってくることや、センシングデバイス等の新技術の導入が健康管理をおろそかにしがちな人間の助けとなってくれる可能性など、今後益々重要となってくるテーマが数多く紹介されている。

職場の課題が一層多様化していく中、これからは解決策もカスタマイズしていく時代だ。本書は、そのための多くのヒントを与えてくれる。働く人のウェルビーイングを考える全ての立場の方に手にしていただきたい有益な書である。

くろだ さちこ  
黒田 祥子

(早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授)

### 編集委員 (五十音順・敬称略)

委員長	相澤 好治	北里大学名誉教授	興梠 建郎	新潟産業保健総合支援センター所長
	大西 洋英	独立行政法人労働者健康安全機構産業保健担当理事	高倉 俊二	厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課長
	加藤 隆康	豊田衛生管理者研究会顧問	田中希実子	元NTT東日本健康管理センター看護部長
	神村 裕子	公益社団法人日本医師会常任理事	浜口 伝博	ファームアンドブレイン社代表/産業医
	甲田 茂樹	独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所所長代理	東 敏昭	一般財団法人西日本産業衛生学会特別顧問